

CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック (1813～1894)



作品名 帰途につく羊たちの群れ

種類 板に油彩 1856年作

サイズ 30.0×60.0cm(仏変12号)

※左下にサイン

略

歴

バルビゾン 七星の一人

- 1813 パリに生まれる。
- 1830 地図の版画職人の見習いに入る。その後、志願して6年間軍隊生活を送る。
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)
- 1840頃 モンマルトルの風景を描き始める
- 1845 エッチング(版画)でサロン入選。その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。
暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバビルゾンに移住。
- 1849 ミレーとは隣り合った家に住む。その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く
バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に
反映し、羊の群れと羊飼という牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。
- 1861 サロンに絵画を初出品。その後、動物画が中心に
- 1894 パリにて死去